

古河市議会

平成25年第3回定例会一般質問

新市建設計画について

園部増治

2013/09/19

13 番議員、真政会の園部増治です。議長のお許しを頂きましたので、通告に従い、一般質問を行います。質問に入る前にさる9月15、16日に日本列島を縦断した台風18号により被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。市内におきましても、いたるところで道路冠水が起きたり、床下浸水や都市下水路があふれてしまったりと大変な被害が出ておりますが、今後このような集中豪雨がまたいつ起こるかわかりませんので、早急なる対応をお願いいたしまして、質問に入ります。

今回の質問は「新市建設計画について」の1件であります。

古河市は平成17年9月12日に合併をしてから丸8年が経過いたしました。合併に至る経過を振り返ってみますと、平成14年7月に総和町・三和町の首長会議が開催され合併に関する協議が進められました。この中で従来からの生活圏の形成や広域行政の経験を踏まえ、古河市に向けて、1市2町の合併に向けた働きかけを行うことになりました。

その結果平成15年3月1日に1市2町による法定合併協議会が設置され、合併に向けた協議が行われました。その後合併に向けた協議は、新市の名称や事務所の位置をどこにするかで暗礁に乗り上げ解散、一時休止となりました。休止期間中は総和町と三和町の2町での先行合併に向けた動きもありましたが、多くの地域住民や団体から1市2町の合併の実現を熱望する意見があり、協議が再開されました。

その後新市の名称は漢字の「古河」とすることや事務所の位置は当面旧総和町役場とすることが合意され、新市建設計画について検討が重ねられました。そのような中で旧古河市において「古河市の合併について市民の意見を問う住民投票が行われましたが、投票率が45.41%と50%に満たなかったため不成立となり、それまで通り1市2町の合併を進めていくことになりました。そして、平成17年2月27日に福祉の森会館において茨城県知事を招き「合併調印式が行われ、平成17年9月12日に県内で5番目の規模となる新「古河市」が誕生いたしました。私も、茨城の西の玄関口としてふさわしいまちづくりをしていく上で、1市2町で合併できたことは本当に良かったと思っております。

そして、合併に当たって市民に示したのがこの新市建設計画であります。新市建設計画は、合併する市町村では、どこでも策定しなければなりません。この新市建設計画の目的を見ても「本計画は、古河市・総和町・三和町の合併による市の将来像やまちづくりの方針を明らかにするものであり、合併後の長期的な指針となるものです。これにより速やかな一体感の確立、地域全体の住民福祉の向上、地域の均衡ある発展を効果的に推進していくこととします」と記されています。

その計画の内容は①新市の基本方針②新市建設の根幹となるべき事業③公共施設の適正配置と整備④新市の財政計画を中心に構成されています。

そして、新市づくりの基本姿勢として

- ① 県西地域の中心都市としてふさわしい魅力あるまちづくり
- ② ふれあいと共生を大切にするまちづくり
- ③ 一人ひとりが主役のまちづくりとなっています。

また、新市において強化すべき機能ということで次のように記されています。

「新しい時代を開く新市建設に向けて将来像は、多くの期待と内容を含んでいますが、特に整備すべき都市としての機能を次の通り考えます。」

「生き生きとした活力創造の都市を目指して、県西地域の中心的都市機能を担う都市の実現を目指して、圏央道や筑西幹線道路などの広域的な交通網の整備を踏まえながら、古河駅を中心とする都市拠点や新駅設置に合わせた新都市拠点の形成をはじめ産業や水、緑を生かした交流などを育む拠点の形成を図るとともに、各拠点間を連絡し都市機能の拡大を促す魅力ある都市軸の形成に努めます。こうした取組を軸としながら、さらに、歴史や文化や自然・田園などの地域資産を生かし、地域に磨きをかけながら、住む人や訪れる人など様々なふれあいと活力を育み、豊かな市民文化を創造、発信し続けるまちづくりを進めます。」となっております。

これらの点を踏まえた上で、先導的プロジェクトが定められております。

先導的プロジェクトによりますと

「新市における一体感の醸成と地域構造の有機的な関連を向上させるとと

もに、合併に対する市民の期待に応えるため、合併に対する市民の期待に応えるため先導的プロジェクトを差だけ、着実な実現を目指します。

まず第1が（仮）南古河駅の設置であります。

J R宇都宮線の新駅予定地周辺において、新市街地の形成に努め新駅設置の早期実現を図ります。

昭和58年に新駅設置期成同盟会ができてから30年近くなりますが、遅々として進んでおりません。そのような中で平成12年3月に菅谷市長が総和町長だった時に、この東北本線（仮）南古河新駅設置計画基礎調査をしていただいております。この調査では東北本線栗橋・古河間への（仮）南古河駅設置計画における新駅利用者数の予測、新駅設置計画の鉄道輸送上および技術上の整理御行い修正計画案の策定及び概算事業費の算出、新駅の事業性試算、さらには実現化への課題等の整理を行って、鉄道事業者との調整協議に資するものとする。と記されてはいますが、大変素晴らしい調査の内容であると思います。多くの市民が望んでいるところでもありますので、一日も早く取り組んでいただきたく願うところではありますが、市長のご所見をお伺いいたします。

第2が筑西幹線道路の整備であります。

国・県・市が一体となって（仮）岩瀬IC（現・桜川筑西IC）から古河総和地区まで約42kmの整備を促進するとともに、J R宇都宮線までの延伸

を図ります。

筑西幹線道路は「県土60分構想」を実現するための4車線の広域基幹道路として計画されており、古河市を中心とする広域的都市圏と筑西市・桜川市など筑西地方の拠点都市を結ぶとともに、北関東自動車道とも桜川ICで連絡し、水戸市を中心とする県央地域との交流を促進する重要な道路として位置づけられています。筑西幹線道路のルート未決定区間の早期決定と全線の早期整備について県西市議会が全会一致で一体となって県に要望したところであります。

第3が高等教育機関の誘致であります。

茨城県内人口5番目の都市にふさわしい高次機能都市の一つとして高等教育機関を誘致し、人材の育成を図ります。

第4が各交流拠点の整備であります。

文化交流拠点、緑と産業拠点を整備し人と物の交流を図ります。

このようになっておりますが、先導的プロジェクトについてどのような認識を持っているか。また、それぞれの先導的プロジェクトについて、どのような取り組みをなされるかをお伺いいたしまして、1回目の質問といたします。

【2回目】

それでは、自席より2回目の質問をさせていただきます。

まず、新市建設計画と先導的プロジェクトについてどのような認識を持っているか伺いました。

新市建設計画は、3市町の総合計画がすり合わされておりかつアンケート調査の結果が加味されたものであります。市民に対するいわば公約でもありますので、そのため市民の期待も大変大きなものがあると思います。

ゆえに、これを着実に実行していくことが市民の期待に応えることにもなり、政治への信頼を得ることにもなり、新市の発展にもつながっていくものと思います。

まず、(仮)南古河駅に設置についてであります。この事業は昭和58年から新駅設置期成同盟会を立ち上げ、基金も積立て取り組んできている事業であります。30年以上に及ぶ長年の懸案の事業であります。

基礎調査の他にも駅の用地確保のため、市で先買いをしていたいただいている土地があります。また、平成8年には都市計画決定も受けていただいておりますし、下水道の事業認可も受けていただいているところであります。

市街化区域で網がかかっておりますので、固定資産税や都市計画税が容赦なくかかってきており、現在のままでは、土地利用をすることもできずに困っており、地権者は悲鳴を上げているのが現実であります。

新駅を作るにあたっては、ただ何もしないでJRに要望活動をしてもできるわけがございません。JRは民営化をいたしましたので、乗降客数ももちろんですが、収益が上がるかどうかということが求められます。そのため駅の用地を確保したり、周辺の整備をすること、さらにJRが収益があげられるような企画を提案すること、また、駅舎を作るための財源の手当てをすることといったようなことをして、JRに働きかけることが必要であると考えます。

市役所内にプロジェクトを推進する部署を設けて、駅舎を担当する部門と周辺整備、土地区画整理事業を担当する部門とに分け同時並行的に進めていけば実現できるものと考えております。

駅の用地を生み出すためには、先買いしていただいている用地を集約しなければなりませんので、どうしても土地区画整理事業が必要になります。土地区画整理事業を立ち上げていただければ、地元の方々は明るい希望が持て、必ず温かく迎えてくれるものと思います。合意形成が得られるように、私からもみなさんをお願いをしていきたいと思っております。一日も早く立ち上げていただきますようお願いをすることであります。

次は、筑西幹線道路についてであります。4号バイパスから東側につきましては、県の合併市町村幹線道路緊急整備事業により整備されました。西側への延伸につきましては、片側1車線で現在、境・間々田線まで調査が行われておりますが、道路というのは1度作ってしまうと拡幅するのは容易ではありませんので、片側2車線で整備できるように用地だけでも確保をしていただきたいと思います。後である時片側2車線で整備しておいてもらいたかったといわれぬようにしていただきたいと思いますと考えております。また、その先旧4号線までの延伸を進めていただきたいと思います願っております。新駅ができれば日野自動車や三和方面からのアクセス道路としての大きな役割を果たすこととなります。つくば方面に逃げられなくても済むこととなりますし、現在国道354号線やつくば・古河線十間通りや自衛隊の引き込み線などの東西軸の渋滞緩和につながるものと思います。将来あの時にやっておいていただいて良かったといわれるようなまちづくりを進めていただきたいと思います。再考をしていただきますようご所見を伺います。

第3番目は、高等教育機関の誘致であります、

今年度から旧総和高校に古河中等教育学校が開校いたしました。県のご配慮に対して改めて感謝を申し上げたいと思います。

大学や短大の誘致が大変難しい状況にあるとすれば、この地域に私立の高等学校かもしくは中高一貫校が誘致できるとこの地域の教育に大きな刺激になるものと思います。新しい駅を作って駅の周辺に誘致することも可能ではないでしょうか。提案をさせていただきます。

第4は、文化・産業拠点の整備についてであります。

名崎工業団地に日野自動車誘致されましたが、本格稼働が前倒しになるということですので、関連企業の誘致にも全力で取り組んでいただきたいと考えております。また、古河駅東部地区の文化交流拠点整備についてのご所見をお伺いいたしまして、2回目の質問といたします。

【3回目】

それでは3回目の質問をいたします。

本年、7月会派の研修で北海道の江別市に行ってまいりました。江別市では「町の顔づくり事業」ということで江別駅の鉄道高架事業と周辺の区画整理事業が行われていました。まさに駅は、市の顔なのです。南古河駅は、市民の多くが期待をしておりますし、アンケート調査を見ても特に10代、20代、30代といった若い人たちの多くが期待をしております。若い人たちに選ばれるまちづくりにもつながるものと思いますし、30年後50年後にもつながる事業であると考えます。

さらに、地域資源を活かすといった観点からもJRが通っているということは、地域資源の最たるものではなかろうかと思えます。有効利用を図っていくべきであろうと考えます。また、コンパクトシティーということが叫ばれておりますが、駅が近くにできるということは、環境に優しいまちづくりにもつながるのです。

東京オリンピックの招致も決定いたしました。日野自動車の本格操業も早まりました。2020年を目指して新駅ができるように頑張ろうではありませんか。筑西幹線道路や他のプロジェクトも含めて全力で取り組んでいただきたいと考えております。市長のご所見をお伺いして私の質問を終わります。